

『御聖体体験』

みこころの聖母会

Sr.クララ 林 明恵

私が初めて意識して聖体に向かったのは、約十年前の事。黙想会に参加し始めたのがきっかけでした。それまでは、ミサの中でいただいた聖体であったのに、黙想のときは聖体に向かって祈るということをしました。小さい頃から、教会で祭壇のどこかに設置されているこの聖櫃に、敬意を表し大切にするように習ってはきましたが、ほとんど無意識にお辞儀だけをしていたように思います。

黙想会では、他の人に倣ってまじく静かに聖櫃の前に座ってみました。初めはとも抵抗を感じました。一体なぜこの箱を見つめなければいけないのだろうか？この箱にどんなパワーがあるのだろうか？この箱をどう見ようか？この箱を見つめて、何か変わるのだろうか？この箱に向かつて祈るとはどうすればいいの？色々な、疑問が頭に浮かびながらも聖体の前に座り続けました。

ところが、黙想会も終わりに近づいて来たころ、いつものように聖櫃に向かつていると、とても不思議な感じが体に感じられました。何か語りかけられているような、守られているような・・・言葉には表しにくいものですが、心では何か喜びが溢れてくるような感じがしました。正直ビックリしました。何だろう、この感覚は？心がとても満足していました。薄暗いチャペルの中で、そんな体験をしたのを覚えています。

又、以前フィリピンに行ったときの事を思い出します。数ヶ月の滞在期間中、あるシスターが聖体賛美式に誘ってくれました。私にはその時初めての聖体顕示だったので、どんなものかとても興味がありました。

夕方、厳粛な雰囲気のある教会にたくさんの方が見守る中、侍者らがキャンドルに火を灯し、静かに司祭を待っていました。賛歌が歌われ、祭司が聖櫃を開けます。いよいよ聖体を顕示します。大きく煌びやかな顕示台に聖体を入れ、たくさんの方のキャンドルが置かれた祭壇の真ん中に顕示されました。沈黙の中、祈りが始まりました。その後司祭が聖体を掲げ、皆に大きく顕示しました。侍者がベルを鳴らします。あの荘厳さ、「キリストの光」を眼に見える形で表された事に、息を呑んだ覚えがあります。復活したイエスは、ここにもこうして生きてくださる!! 全てのもの、雰囲気、音、司祭や侍者のしぐさが大きな印象として、私の心に今でも残っています。

面白い事に、毎日御聖体を前にお祈りしても、何がしかいつも違った印象を受けます。それは、聖体の中にイエスさまの投影をみる私自身が常に変えられているのかなあと思います。このようにしてイエスさまと対話していると、御聖体は生きているんだなあと思わされます。この変化や対話の内容はとても微妙たるものですが、お祈りを繰り返す事で、御聖体がだんだん近くてごく日常の存在になってきました。

御聖体は、色々なアングルで包括的な意味がたくさん含まれています。御聖体の深みは底なしで、私を包み、励まし、時に叱咤し、時にはドライになり、さらには教会の一員としての働きを促します。御聖体は、ただにも賛美するにも、今では私にとつてとても大切な存在になっています。

